

3.3.2.1 特別講義の実施「学校周辺の生態調査」

担当：岩本 哲人

実施時期：令和3年6月3日(木)15時30分～17時30分 場所：理科実験室
対象生徒：本校1、2、3年次参加希望生徒 計29名
講師：横川 忠司 様（生きもの科学研究所） 鈴木 武 様（兵庫県立人と自然の博物館）

1. 解決研究開発の経緯と目的

本校では学校設定科目「神戸サイエンス①」において野外調査「身近にある植物のかたちと環境の関係」を行っている。そこで、「神戸サイエンス①」履修者を中心に1、2年次参加希望生徒を対象に専門家をお招きして「学校周辺の生態調査」をテーマにして特別講義を実施した。本事業の目的は、学校周辺の身近な自然に触れることで生物多様性について興味・関心を深めて、専門的なフィールドワークの手法を学ぶことである。

2. 仮説

上記の目標に基づき、本事業により育むことができる力は以下の通りである。

	課題 設定力	企画 協働力	論理 考察力	自己 学習力	表現理解力		ICT 活用力
					発表	質問	
仮説	○	○		○			

参加生徒同士が協力しながらフィールドワークを行うことで企画協働力を育むことができると思われる。また、身近な生物に触れ興味を持つことで自己学習力を育むことができると思われる。

3. 研究内容・方法

本校理科実験室2に集合し、講師が生態調査についてオリエンテーションを行った。捕虫網の扱い方を説明した後、学校周辺の公園に移動し、フィールドワークを行った。その後、採集した昆虫を標本にする方法を実験室で学び、整理を行った。また安全・感染防止に留意しながら活動した。

4. 検証

成果を検証するために、参加者にアンケートを行った。各力が向上したと思うと回答した割合は以下の通りである。

	課題 設定力	企画 協働力	論理 考察力	自己 学習力	表現理解力		ICT 活用力
					発表	質問	
検証	52%	76%	38%	76%	28%	31%	0%

すべての項目において、昨年度と同様の結果になった。特に企画協働力については昨年度64%であったが、今年度は76%にあたる生徒が実感している。これはオリエンテーションでの適切な事前指導があり、参加生徒同士が協力しながら、フィールドワークに取り組めたことが要因と思われる。課題設定力についても、本事業で育むことができる力として想定できることが今年度も検証できた。本プログラムは多種多様な生物に触れ、生物多様性の意義を学べる機会である。さらに自ら課題を見つけて学ぶ機会でもあることが実感できた。新型コロナウイルス感染症の流行のために、昨年度は9月にしか実施できなかった。今年度は6月に実施をしたが、時期的には適切であった。